

平成 29 年度舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成 30 年 2 月 26 日 (月) 13:00 ~ 15:00

2. 場 所 : 舞鶴工業高等専門学校 大会議室

3. 出席者 : 外部評価委員会委員

東 信 彦 委 員 (長岡技術科学大学 学長)
後 藤 景 子 委 員 (奈良工業高等専門学校 校長)
田 中 孝 幸 委 員 (日進製作所 (株) 総務部長)
奥 水 孝 志 委 員 (舞鶴市中学校長会 会長)
(塩見 登志彦 城北中学校教頭 代理出席)

学内出席者

齋藤校長 (評価委員会委員長)、小野学生主事、仲川寮務主事、三輪専攻科長、
金山評価委員会副委員長、竹澤電気情報工学科長、川田電子制御工学科長、
四蔵建設システム工学科長、垂谷人文科学部門長、西山教育プログラム (MDE) 委員長、
片山情報科学センター長、児玉教務主事補、桑原事務部長、窪田総務課長、
松梨学生課長

発表者

奥村企画室長、平地地域共同テクノセンター長、高谷教務主事

4. 校長冒頭挨拶

議事に先立ち、齋藤校長から挨拶があった後、議題について説明が行われた。

5. 委員の紹介

金山評価委員会副委員長より委員の紹介及び資料の説明が行われた。

6. 委員長選出

本校外部評価委員会規程第 5 条に基づき、委員の互選により東委員が委員長に選出された。

7. 状況説明・質疑応答

(1) 平成 28 年度の年度計画・実績と平成 29 年度計画・進捗状況について

奥村企画室長より配布資料に基づき説明が行われた後、次のとおり質疑応答が行われた。

東委員長より女子学生の人数、割合について質問があり、奥村企画室長から全体のおよそ 15% である旨の回答があった。また、本校におけるキャリア教育の特色を聞きたいと意見があり、高谷教務主事から、企業の講師による講演会の開催について、奥村企画室長から、女子学生対象で外部講師を呼んでの講演会の開催について、仲川寮務主事から、地域を回り

学校の報告を行うとともに本校卒業生等からどのような進路活動をしたか保護者に向けて発表を行った、などの回答があった。

後藤委員より、男女共同参画に関して、女子中学生が高専に入りたいと思えるような工夫、工学と女子のマッチングの工夫、舞鶴高専への入学志望者増の工夫を知りたいと質問があり、川田電子制御工学科長より、女子学生やOG等と女子中学生や保護者が交流するイベント等にてアピールしていると回答があった。

田中委員からインターンシップの拡充、どんな仕事をしたいのかミスマッチが起らないように、転職する卒業生のフォロー等も充実して欲しいとの意見があった。

(2) COC、COC+事業について

平地地域共同テクノセンター長より、配布資料に基づきCOC、COC+事業の取組、今後の展開について説明が行われた後、次のとおり質疑応答が行われた。

塩見委員より、進路説明会について質問があり、齋藤校長より舞鶴市内の中学校は全校訪問しているが、説明の機会があればお声かけいただきたいとの回答があった。なお、舞鶴市の奨学金制度で舞鶴市内に就職した場合は返済不要となる制度がある旨の説明があった。

塩見委員より、進路説明会で高専の学生に経験をお話いただく等があれば良いとの意見があり、齋藤校長より対応可能であると回答があった。

東委員長より、公開講座や出前授業といった地域の取組は素晴らしいが、京都工芸繊維大学との実際の連携はあるかとの質問があり、平地地域共同テクノセンター長より、あまり実績はないとの回答があった。また、COCを通してインターンシップが増えた、地元の就職が増えた等はありませんかとの質問があり、平地地域共同テクノセンター長から、COC+事業は開始3年目であり結果は見えてきていない。また、齋藤校長からインターンシップは増えてきているとの回答があった。

田中委員より、工業系の学生は大企業への就職を目指すのが、地元企業には地元企業ならではの良さがあり、地元企業では全工程の一部でなく全体の仕事に携わることが出来ると意見があった。

塩見委員より、今の中学生は将来のイメージを持った生徒が少ない。中学校1・2年生の間に進路説明会があれば出口を考える機会になるのではないかと意見があった。

小野学生主事より、要望に合わせた出前授業の開催、健康町づくりの観点から健康寿命を延ばす取組や、運動機会を増やす取組等を実施している旨、説明があった。

後藤委員より、他の教育機関との繋がりや学科を越えての取組が必要ではないかとの意見があった。

(3) 学力向上の取組について

高谷教務主事より、配布資料に基づき説明が行われた後、次のとおり質疑応答が行われた。

後藤委員より、奈良高専では3年次までは進級させることを考えている。その後、進路変更が必要な学生に対しては、大学に進学するなど、その人に合わせて取り組んではとの意見があった。

塩見委員より、高校と高専のイメージが同じで混乱しているのではないかと、また、子供達に適切な説明をする必要があるとの意見があった。

東委員長より、大学でも学力低下が進んでいること、進路変更を早く気づかせること、質の保証は卒業するまでにクリア出来れば良いのではないかととの意見があった。

田中委員より、舞鶴高専から企業に就職する学生の質は良い。企業は学力だけではない。人間力、探求力も必要との意見があった。

東委員長より、単位認定で到達度評価をどうしているのかとの質問があり、高谷教務主事より、シラバスに到達度目標を記載しており、総合的に評価しているとの回答があった。

(4) 全体を通して

田中委員より、今時の子は叱られることに慣れていない。メンタルヘルスを考えた教育も大切。学校側も学ぶモチベーションを考えていただくと良いとの意見があった。

(5) 総括

東委員長より以下のとおり総括が行われた。

(1) 平成28年度の年度計画・実績と平成29年度計画・進捗状況について

男女共同参画推進にあたって、女子学生対象の種々の取組を実施されている。

(2) COC、COC+事業について

事業実施にあたり多様な取組を実施されているところがあるが、他大学と共同の取組があればなお良い。地元とのつながりが増える等、今後の発展を期待している。

(3) 学力向上の取組について

学力低下の防止は重要な課題と考える。学生のモチベーション向上も重要である。

また、学力だけでなく人間力が必要となる。進路変更については自ら気づかせることも重要である。

8. 校長閉会挨拶

齋藤校長から、幅広い視野を持ち、先見を持ち、学生のモチベーションを高めていきたいと閉会にあたっての挨拶が行われた。